

オープンオフィスとオープンドキュメント形式 を推奨しています

会津若松市では、ワープロや表計算などに使用するパソコン用オフィスソフトウェアとして、無償で利用できる「オープンオフィス」を全庁的に導入し活用しています。また、2008年10月より、パソコンで作成する文書などの標準データ形式として「オープンドキュメント形式」を採用しています。

この資料は、オープンオフィスやオープンドキュメント形式を、市の関係団体や企業、市民の皆様と広く共通利用することで、データ形式の国際標準化や行政コストの削減を図ろうとするものです。

オープンオフィスとは？

オープンオフィスは、正式には「OpenOffice.org: オープンオフィス・トータル」というオフィスソフトウェアで、ワープロや表計算、プレゼンテーションなど、これまで利用されてきたオフィスソフトウェアと同様の高い機能を持っています。

オープンオフィスは、特定の企業に依存しない有志のコミュニティによって、オープンソースという方法によって開発されており、インターネットで無償で配布されているため、誰でも利用することが出来ます。

会津若松市では、このオープンオフィスを全庁的に導入することで、費用削減などに役立っています。

オープンドキュメント形式とは？

オープンドキュメント形式は、ワープロや表計算などの、一般的な業務で利用される電子文書を、国際的に標準化しようという目的のもとで規格化(※)されたものです。内部設計がすべて公開されているため、様々な企業や団体が、対応する文書作成ソフトを開発しています。

※オープンドキュメント形式(「ODF: Open Document Format」)は、国際標準化機構(ISO)と国際電気標準会議(IEC)によって、「ISO/IEC 26300」として国際標準規格に認定されています。

期待できる効果

オープンオフィス・オープンドキュメント形式の導入により、以下の効果が期待できます。

1. パソコン購入・維持費用の削減
2. 作成した文書の保存・取り扱いの効率化
3. 利用するオフィスソフトの選択肢の増加

パソコン購入・維持費用の削減

オープンオフィスはインターネット上で配布されており、誰でも無償で利用することが出来ます。

市販されている文書作成ソフトは、2～5万円ほどの価格となっているものが多く、オープンオフィスを導入することで、この費用を削減することが出来ます。

作成した文書の保存・取り扱いの効率化

これまでの電子文書は、特定企業の販売している専用ソフトでしか取り扱うことが出来ず、企業側が専用ソフトの設計を変更したり、販売を止めてしまうと、作成した文書が取り扱えなくなるという問題がありました。

電子文書を「オープンドキュメント形式」に移行することで、こういった問題が解決され、一度作成した文書は、いつまでも利用し続けることが出来るようになります。

利用するオフィスソフトの選択肢の増加

オープンドキュメントは、内部の設計が公開されているため、オープンドキュメント形式を取り扱うことの出来る文書作成ソフトを、様々な企業が開発しています。

この為、オープンドキュメント形式で作成した文書は、必要に応じて様々な文書作成ソフトを選択して利用することが出来ます。

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. オープンオフィス | 有志のコミュニティ(企業・個人)による開発 |
| 2. スタースイート | サンマイクロシステムズ株式会社 |
| 3. ロータスシンフォニー | IBM 株式会社 |
| 4. マイクロソフトオフィス(対応予定あり) | マイクロソフト株式会社 |

導入の注意点

オープンオフィスやオープンドキュメント形式の導入には、以下の点を考慮しておく必要があります。

1. 操作方法の違い
オープンオフィスは、これまで利用されてきた文書作成ソフトによく似た操作方法で利用できますが、様々な点で操作の違いもあるため、慣れるまでにある程度の時間を要します。
2. これまでに作成した電子文書の再現性
オープンオフィスは、これまでに作成した電子文書(マイクロソフトオフィスなどで作成したもの)を取り扱うことが出来ますが、再現性が完全ではないため、多少の修正を行う必要があります。
3. サポート体制
オープンオフィスは、世界中の有志の人たちによって開発が進められています。利用に当たって、市販の文書作成ソフトの様に、企業によるサポートは利用出来ないため、インターネット上で情報収集するか、別途企業によるサポート契約を行う必要があります。
4. バージョンアップ作業
オープンオフィスには自動更新機能が無いため、各パソコンに対してバージョンアップ作業を行う必要があります。

よくある質問

有志が開発したもので大丈夫ですか？

オープンオフィスは誰でも開発に参加できるため、不安を感じるかもしれません。

しかしオープンオフィスは、ソフトウェアの内部設計が全て公開された状態で開発が行われており、(オープンソース)このために、不具合などを含むプログラムが紛れ込む可能性は低いと言えます。

企業の保証が無くても大丈夫ですか？

オープンオフィス自体には企業による保証はありませんので、利用にあたっての問題はインターネットで調べるなど、ある程度自己解決していく必要があります。また、これまでの文書作成ソフトと同様に、別途有償によるサポートを提供している企業と契約することも可能です。

これまでの文書作成ソフトは使えなくなるのですか？

マイクロソフトオフィス(マイクロソフト株式会社)は、オープンドキュメントへの対応を表明しており、2009年以内には、取り扱いが可能になる予定です。また、一太郎(ジャストシステム)もオープンドキュメント文書を出力可能となっています。

これまでに作成した文書はどうなりますか？

マイクロソフトオフィスで作成した文書を取り扱うことは可能ですが、文書によっては完全に再現できない場合があるため、ある程度の修正などを行ったうえで取り扱う必要があります。

オープンドキュメント形式に移行することで、再現性の問題は無くなります。

オープンソースとは何ですか？

オープンソースとは、開発に必要な設計図(ソース)が全て公開されたソフトウェアの開発形態です。オープンオフィスをはじめとして、開発されたソフトウェアは無償で配布されているものが多く、コスト削減や保水性、機密保持などの点から、企業や団体での導入が進んでいます。

詳しい情報の入手先

- 会津若松市「オープンオフィスとODF形式文書を導入しています」
<http://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/ja/shisei/torikumi/ooo/index.htm>
- OpenOffice.org 日本語プロジェクト公式サイト
<http://ja.openoffice.org/>
- OpenOffice.org 日本ユーザー会
<http://oooug.jp/>
- ウィキペディア「オープンオフィス」
<http://ja.wikipedia.org/wiki/Openoffice>
- ウィキペディア「オープンドキュメント」
<http://ja.wikipedia.org/wiki/OpenDocument>

画面など



The screenshot displays three overlapping windows from the OpenOffice suite:

- OpenOffice.org Writer:** The main window showing a document titled "オープンオフィスとODF形式文書の特徴". The text discusses the benefits of OpenOffice and ODF, mentioning that it is a free office software that complies with international standards. It lists features such as macros, spreadsheets, presentations, and databases.
- OpenOffice.org Calc:** A spreadsheet window showing a table with columns A through G and rows 1 through 5. The data in the table is as follows:

	A	B	C	D	E	F	G
1							
2		A	B	C			
3			1	123	252627		
4			2	456	222324		
5			3	789	192021		
- OpenOffice.org Impress:** A presentation window showing a slide titled "オープンオフィスとODF形式文書の特徴". The slide content matches the text in the Writer window. The Impress interface includes a slide sorter on the left and a navigation pane on the right.